

α-グルコシダーゼ活性阻害試験

α-グルコシダーゼ(AGH)はデンプンが分解されて生じるマルトースなどの二糖類を分解し、この結果グルコースが生成致します。このAGHに対する阻害作用をラット小腸由来酵素を用いて評価致します。基質には p-ニトロフェニル-α-グルコピラノシドを用います。

試験方法

試料の抽出には 50 %エタノールを用います。酵素反応により生じた p-ニトロフェノールの吸光度を測定致します。AGH 活性阻害率は試験溶液を加えない未処置対照の AGH 活性を 100 %とした場合の相対値として算出致します。通常は 5 mg/ml の濃度の抽出液の相対 AGH 活性を結果として提出致します。また、 IC_{50} 値の算出も可能です。

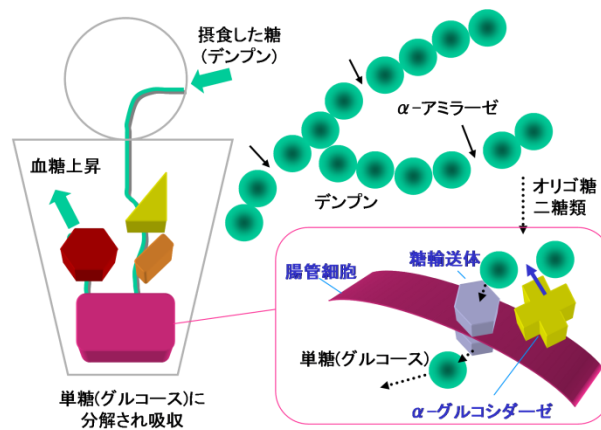


図-1 糖とα-グルコシダーゼ

検体必要量

必要量：約 10 g (10 g 未満の場合はお問い合わせください。)

試験設計など、詳細につきましてもお気軽にご相談ください。